

“鉄より堅く逞しき”

生徒指導通信 第33号
令和4年1月24日発行
黒沢尻工業高等学校

○人生を“愉しむ”

大学入学共通テストの試験会場だった東京大学近くの路上で、男女3人が刃物で切りつけられるという事件が発生しました。逮捕された高校2年生は、「医者になるために東大を目指して勉強していたが、成績が上がらず、死のうと思った。自殺する前に人を殺して、罪悪感を背負って切腹しようとするようになった」と供述しています。

同じ高校生として、皆さんはどんなことを考えるでしょうか？人生には思いどおりに行かないことが多くあります。高校生のうちは、机上での勉強だけでなく、どうやって世の中に対応するかを考えること自体が勉強になっています。事件を起こしてしまう程に追い込まれていた心理を考えると、可哀想でなりません。誰も気づいてあげられなかったのが問題です。心が追い込まれた時は、決して1人で抱え込まず、誰かに相談することも必要です。

『人間万事塞翁が馬』という言葉があるとおおり、良いこともあれば悪いこともあります。嫌な出来事や辛い時こそチャンスです。『好事魔多し』という言葉もあり、上手く行っている時には浮かれず、自制心を保つ必要があります。つまり、自分に降りかかってくる様々な出来事が、全て自分を高めてくれるきっかけになれます。そうやって人生を“愉しむ”ことで、充実した日々を過ごせるはずですよ。

できないことを嘆くよりも、今できることに目を向け、将来の自分の可能性に期待しましょう。

愉しむ・・・『喜怒哀楽』の感情を惜しむことなく全力で“味わう”こと

○お互いを理解して歩み寄ること

問題行動における指導措置に“謹慎”というものがあります。謹慎中の生徒に質問すると、一様に「友だちと会えなくて寂しいです。」と答えます。そうなる前に感じて欲しいのですが、友だちの有り難さに気付く機会を得られたことは、決して無駄にはならないはずです。

ところが、普段は他人への関心が薄く、コミュニケーションを取ることに面倒臭くなり、平凡で無難な生活を求めている人が多いのではないのでしょうか？そういう人に限って、「あいつがミスしなければ勝てたのに！」「あの子が無視するから嫌いだ！」など、責任を他の人に擦り付けてしまうのです。

本当は必死にやった結果かも知れませんが、別のことに集中していて他人の言葉が耳に入らなかったかも知れません。それにも拘わらず、「何を言っても無理だ！」などと、心を閉ざしてしまうことは危険です。

“無難”の反対は何でしょうか？それは“有難”つまり「有り難い」です。苦難や困難は避けたいところですが、人との関わりから生じる“難”には感謝すべきです。人はそれぞれ育ってきた環境が違い、価値観も人それぞれです。まずは、お互いの価値観を知ることが大切です。ただ、それだけでは心の距離を縮めることが十分とは言えないかも知れません。

次にやるべきことは、歩み寄ることです。「え、そうだったの？なぜだろう？」と関心を持ち、まずは理解しようとする姿勢を持つことが大切です。お互いが大切にしている価値観を知ることによって信頼関係を深め、組織や集団としての大切にしたいことを整えていくことができます。同じクラスや部活動に所属しているからこそ、互いに大切にしている価値観を知り、歩み寄る機会をつくりましょう。

感謝